

# 囲碁入門講座通信 令和2年 第15号



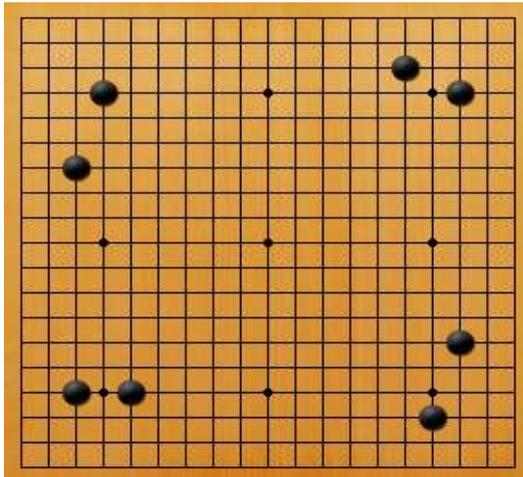
報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。(棋士名は碁に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用に囲碁用語を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

## 囲碁用語 シマリの種類・定石と名称について

**シマリ**とは先着した隅の石に対して、相手が力かってくる前に戸締りをする手のことをいいます。ここでは小目からシマる例を図で示します。**定石と名称**；定石とは主に隅において、双方が最善を尽くして出来上がった定型で、部分的には互角とされる手順のことをいいます。定石は、星、小目、高目、目ハズシ、三々への各種力カリと、それに対する受け、ハサミ、ツケなどの手段別に分類されますが、その数は日本棋院の定石大事典に収録されているものだけでも約18,000型もあります。枝葉の細かい変化まで含めれば、その数は数万とも言われますから、全部覚えるのは不可能ですし、たくさん覚えてもあまり意味がありません。



(上図)シマリの種類

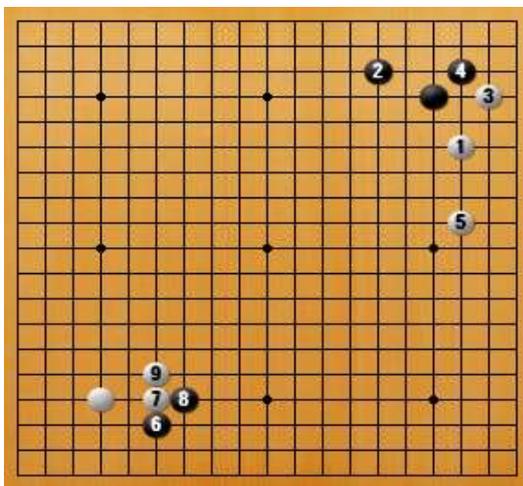
**小ゲイマシマリ (右上)** ここだけで地が確定しており、最もよく打たれるシマリです。

**大ゲイマシマリ (右下)** 小ゲイマより少し欲張った分、少し弱点が残っています。

**一間シマリ (左下)** 小ゲイマより地に甘い、辺や中央に少し発展性があります。小ゲイマとの優劣は、その後の打ち方次第です。

**左上・星との比較** 星から大ゲイマにシマった例です。白からの三々打ち込みが残っていますから、地にするためにはもう一手かける必要があります。しかし、小目からの大ゲイマシマリ(右下)はほぼ地になっています。星と小目との違いです。

## 最もやさしく、よく打たれる星の定石



(小ゲイマガカリにケイマ受け、ケイマにスべる (右上))

**白1の力カリに黒2と受ければ、白3とスべるのがいちばんよく打たれる定石**です。この後、黒4とコスむのが手堅く、白5の二間ピラキまでが定石です。双方が根拠を持ち、互角に分かれて満足します。この後、黒は先手を持ったので別の場所に回ります。

**ツケ、ハネ、ノビ (左下)**

左下は星の「**ツケノビ定石**」の最初の4手を示したものです。黒6の力カリに対しての白7が「**ツケ**」、白7に対する黒8が「**ハネ**」、そして白7の石の隣(中の方向)白9の手が「**ノビ**」です。この白7~9を合わせて「**ツケノビ**」と言います。この形は隅だけでなく、辺や中央でも応用の利く形です。なお、黒8のハネに関しては「**ツケにはハネよ**」という格言があることを付け加えておきます。